



こどもの権利サポートプロジェクト ～すべてのこどもの「声」が大切にされる社会へ～

現状・課題

意見表明の困難さ：一時保護等の場面では、こどもは親と引き離される不安の中にある。措置の決定権を持つ職員や、生活を支援する施設職員には、本音や不満を伝えるにくい現状。

権利の制約：一時保護等はこどもの生活を制限する側面があり、こどもの意見を十分に聴くことが不可欠となる。

権利の学習機会の不足：こども自身が自分の権利について学ぶ機会が少なく、権利侵害に気づけない。

取組



子供の声を大きくする
マイクのような存在

① 意見表明等支援員(アドボケイト)の派遣(個別・グループ)

個別アドボカシー：弁護士や社会福祉士などの専門家が、一時保護施設や児童養護施設、里親家庭を訪問し、こどもの声を丁寧に聴き取ります。

グループアドボカシー(令和6年度～拡充)：複数の意見表明等支援員が施設等を訪問し、ワークショップ形式で「こどもの権利」について伝え、意見を出しやすい雰囲気を作ります。

② 意思決定プロセスへの参画支援

判定会議等への支援員派遣：こどもの措置先を決める重要な会議において、こどもの意見を代弁、またはこども自身が出席して意見を言えるようサポートします。

③ 普及啓発・周知

こども向けのパンフレット作成や、支援員の資質向上のための研修会を開催します。

寄附金の使途

一時保護施設でのこども会議でこどもが意見を表明しやすくするための費用及び、一時保護施設に入所しているこどもが判定会議(こどもの措置先などを判断する会議)で自らの意見を述べるための費用(意見表明等支援員の派遣費用)